

九戸村教育委員会外部評価委員の意見

学校教育行政の主要施策について

- 学校教育は、行政との連携が効果的に推進されて、目標達成型の学校経営や小中高連携による学力向上など五者連携により時代に即した教育が推進されている。同時に教育の根幹に係る事項等は、教育長の適切な指導のもとに、円滑な推進が図られており、引き続き学校教育等をはじめ教育行政全般の充実発展に尽力いただきたい。
- 情報が共有され、学校と教育委員会が共通認識のもと、課題に取り組んで連携した教育体制がとれている。
- 校長会議が毎月開催されている中で、教育長からの指示や学校からの要望を吸い上げることなど、情報共有がなされており、学校教育の充実につながっている。
- 全国学力調査及び県学習定着度調査等の結果を踏まえて、授業改善による工夫改善、学習習慣の定着等に関する実践など、学力向上・授業力向上が円滑に推進されている。これは、学校をはじめ5者の連携によって成し得るものであるが、特にも教育現場の先生方が個々の資質や能力を発揮するため、日常的に調査・研究の実践に努め、指導力校のため邁進した結果であり、適切なご指導に敬意を表するものである。
- 児童生徒の実態を的確に把握し、その実態に即した教職員の指導力向上を図るための研修内容を吟味するなど、学力向上・健全育成に取り組んでいる。授業改善、ICT活用、学習指導等の充実に向けた研修など、共通理解とスキルアップの場が設けられており、教員の指導力の向上に期待する。
- あらゆるものがコンピューター化して社会経済が動いている。授業や会議・研修等はオンラインにより自宅で可能となり、AI機器によって社会が変化している。これらに対応するために、ICT機器を活用できるための環境整備は必要不可欠なアクションプランである。
- コロナ感染症対策のために必要なICT機器・電子黒板・パソコン等の有効活用により、良好な教育環境の維持管理・充実に努められている。
- ナインズ合同学習や職場体験の実施などは、社会の中で主体的に生き抜く力を育むことに結びつくものと期待される。
- コロナ禍によって受け入れない業種もある中、中学2年生の38名が22か所の職場体験を行い、職業人・社会人としてのコミュニケーション能力を感じとる機会を得て生き抜く力を育んだことは、キャリア教育の成果である。
- 教員の研修によって、教員の指導力向上がうかがわれる。これによって、いじめ防止や早期発見、学校不適応対策や地域福祉部署との連携などによって、多くの様々なケースに対応できている。
- いじめや学校不適応対策については、児童生徒一人ひとりにきめ細かく対処し、支援にあたっている様子が伺われる。組織的に、また関係機関と連携して対処していただきたい。
- 学校におけるICT環境の整備が進められ、研修等の充実に努めている。有効活用及び学力向上に期待する。
- 幼保・小・中・高の連携した取り組みは、大変重要である。ナインズ合同学習や幼保・小・中

関連研修など、個々の対人スキルの向上や、それぞれのスムーズな連携を図る工夫がなされている。

- 伊保内高校への支援事業について、様々な地域貢献事業を展開しているが、更なる魅力ある学校づくりに期待する。
- 学校給食センターが各学校を訪問して児童への食生活に関する指導を行っていることは大変良い取り組みだ。バランスの良い食事や朝食欠食の課題等、生活習慣に最も大切な食生活について、子ども自身が理解することが重要である。
- 学校統合は、避けて通れない喫緊の課題であると思う。先の「村民アンケート調査」によると、多岐にわたった意見が見受けられる。特に小学校再編・統合に関する意見が59.9%、早期に取り掛かるべきとの意見が40.1%と最も多く、小学校統合の機運が高まっているものと思われる。こういった村民の声にいま一度耳を傾けて、次世代の人材育成のために適正な教育環境の整備を推進すべきだと思う。この機会を逃さないためにも早い時期に構想等を示し村民の期待に応えることが望ましい。併せて、統合後の旧校舎の利活用についての構想等も検討いただきたい。
- 望ましい教育環境の整備について、子育て世代が納得し、安心して教育を受けさせたいと思える教育環境を整えてほしい。
- 学校給食センターで各学校を訪問して、食生活に関する指導を行っていることについて、とても良いことである。

社会教育行政の主要施策について

- 県が提唱した教育振興運動は、活発な活動時代もあったが、現在は形を変えて継続している。実施市町村は減少している現状だが、本村は幼保・小中高が一体となり一つの組織体での活動が継続されており、五者一体の運動で小さな自治体ならではの活動ができる。コミュニティスクールとの連携も図りながら、引き続き継続することを望む。
- 生涯学習の振興は、参加人数を増やすことが難しい状況にありながらも、学習機会と学習情報を提供することで、個々の学習意欲を培い地域の教育力の向上に繋がる効果が期待できる。適切な指導のもとで、各種事業は概ね良好な成果を挙げている。
- 教育振興運動とコミュニティスクール構築について、例年の集約集会での活動報告等を見ても、どの地区においても地域とのかかわりをもってとても良い活動ができている。今後とも地域の実情を踏まえて、調整し活動を展開してほしい。
- 「生涯学習・保健ガイド」は、村民の健康意識や学習意欲及び社会参加の向上につながっている。今後とも内容をさらに充実して継続してほしい。
- 全世帯に配布されている「生涯学習・保健ガイド」は、さらに充実した内容になっており、村民の生涯学習への関心が深まるとともに村民の各種講座への参加促進の資料になっている。
- 放課後子ども教室及び学童クラブは、地域交流・スポーツ交流・文化活動により、子どもの成長とともに学習や安全に有効であり、その実績も向上し成果を挙げている。
- 「九曜塾」は、村の歴史・文化・自然などの知識を高める機会となっており、青少年の健全育成に結びつくものと考えられるため、継続が望ましい。
- 「九曜塾」の活動は、村の自然・文化・歴史に触れる機会であり、子ども同士の交流の場とも

なっていることから、今後も継続して展開してほしい。

- 「九曜塾」は、子どもたちに村の自然や文化、そして歴史に触れるなど、体験活動によって豊かな知識と歓声を培っている。塾生（参加人数）も適正な人数で、外部講師ではなく地元の名士のご協力によって実施していることが効果的である。
- 「女性教室」や「生涯学習アカデミー」については、受講者の募集形態を変え、気軽に参加できるよう工夫されたい。参加者の顔ぶれも少しずつ変わっていることが喜ばしい。村民にとって、村の良さを見直す機会でもあり、学習意欲の向上と社会参加の機会となっている。これからも参加者のニーズを把握しながら、口座の充実を図っていただきたい。
- 国際交流事業に伴う青少年海外派遣事業が数年にわたり中止が続いており、国際感覚を身につけた人材育成の道が閉ざされている。再度、国際交流実現に向けての事業再開を望む。
- コロナ禍のためイベント開催が変更あるいは中止を余儀なくされているが、予防対策を講じて実施された行事は、他の事業等に反映されるなどその効果が期待できる。関係団体との連携を保ちながら、要望に応えられるよう多岐にわたる課題の解消に努めた結果は評価できる。

文化行政の主要施策について

- 「黒山の昔穴遺跡」の保存・保護活動については、花いっぱい運動も含めたPRの方策を検討していただきたい。村民を巻き込んで組織の拡充、遺跡ボランティアの育成等を検討してはどうか。
- 「黒山の昔穴遺跡」の国指定史跡を目標に、保護活動とあわせて広くPR活動を継続して展開すべき。妻の神遺跡発掘調査報告書が刊行され、広く活用されることが期待される。
- 歴史・文化などの「村の宝」を紹介するガイドの養成など検討してみてもどうか。
- 山伏神楽祭典・二戸地区郷土芸能発表会・産業文化まつり・書初め大会等は、芸術文化に触れ、豊かな情操を培い健全育成に寄与する。文化の振興、鑑賞の機会がコロナ禍により中止を余儀なくされていることは残念だが、参加する児童生徒・一般の方々など、発表の機会を失いつつも平素から練習や作品制作等の活動は日々弛まなく続けられていることを評価したい。また、申猛威を振るったコロナウイルスは、終息を迎えつつあることから、次年度以降の開催に実りあることを期待する。
- 産業芸術文化まつりの中で、展示部門に関しては、ここ数年小中高生の作品が多くなっており、村民に対する子どもたちの活動の紹介となっておりとても良い。その反面、一般の作品が年々少なくなっているように思われる。20代から50代あたりの年代が参加できるよう、何らかの工夫が必要ではないか。

公民館運営の主要施策について

- 「花いっぱいコンクール」の参加団体が減少していることは大変残念。高齢化などそれぞれの団体の事情もあると思われるが、活動のあり方を含め、先進事例の紹介、新たな部門の創設など、この運動を継続していけるよう検討していただきたい。
- 「花いっぱいコンクール」の参加団体数が減っていることは残念だが、コロナ禍の中でコンクール自体が実施されたことは良かった。
- 「花いっぱいコンクール」の令和4年度参加団体は9団体であり、参加団体の減少により、

豊かで住みよい地域社会が崩壊しかねない状況。事情によりコンクールに参加が難しい実践区のために、別のメニューで村民憲章実践運動に参加できる工夫が必要と考える。地域活性化につながる活動について、検討していただきたい。

- 公民館学級（ないんずカフェ・ラーニング講座）は、コロナ禍においてできる限りの対策を講じ、内容についても新しい講座など工夫して実施されている。

生涯スポーツ行政の主要施策について

- 運動教室（未就学児～シニア向け）の企画は、自らの体力づくり、健康づくりの意識づけにとっても効果的である。参加者同士の交流も図られ、社会参加の機会にもなっている。今後とも、誰もが気軽に参加できるような機会を設定し、心身ともに健康保持を推進するよう呼び掛けていただきたい。
- 自然に親しむウォーキング（トレッキング）は、幼児から高齢者まで、無理なくできるスポーツである。折爪岳、カタクリ、水芭蕉、つつじ、あじさいロード、雨堤みの睡蓮・紅蓮など、村の四季折々の絶景・見どころなど、マップを作成するなどの情報発信も行い健康づくりの意識づけができるとうい。
- スポーツイベントは、一部の種目を除いて中止が多くみられた。コロナ禍でやむを得ないものと思うが、このことによって村民のスポーツに対する関心が低下しないよう、対策を望む。
- スポ・レク大会は、従来から6ブロック方式で行い、各地区の強い対抗意識がある中で、体力向上・健康増進に寄与してきた。近年は少子高齢化が進み、参加意識が希薄になり、団体としてチームとしての編成が難しい状況にあるように思われる。個人としてのスポーツはそれぞれが自由に取り組んでおり、スポーツクラブなど個々の選択肢は広くある中で、地区としてのチームへの参加意識は希薄であるように見受けられる。リーダー不足といった面もある。競技団体の指導やスポーツ行政による指導も今後は必要かと考える。
- 老いも若きも「一人・一つのスポーツ」の生涯スポーツを推進し、かつての良き体育振興を取り戻し、村民の体力向上と健康増進を図るため、スポーツ・レクリエーション施策の再検討・再構築をしてもよいのではないか。
- 3年間猛威を振るったコロナウイルスは、終息を迎えつつあることから、各種大会をはじめスポーツ教室等の開催によって、村民の体力向上と健康保持を積極的に推進していただきたい。
- 総合運動公園のクラブハウスは倉庫となっている。有効活用を検討すべき

その他

- 前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な制限があり、また配慮が必要な中、教育委員会及び各学校とも、子どもたちや村民のために、何とか事業が展開されるよう苦慮し様々な工夫をされたことに敬意を表したい。